

先端科学技術研究センター

I	研究水準	研究 26-2
II	質の向上度	研究 26-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員（助教以上 78 名）一名当たりの発表学術論文数が 3.28 件であり、著書、学術雑誌への掲載、学会発表等の研究活動成果は、平均 12.2 件（社会分野は 3.3 件）に上る。また、4 年間の特許出願件数は、247 件、同登録は 78 件（ただし、平成 19 年度は、それぞれ 33 件と 13 件）であり、企業との共同出願特許も出願され、活発な産学連携活動を示している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択率は、年平均 80%を超えており、平成 19 年度における外部資金の獲得額は 25 億円であることから、活発な研究活動が展開されているなどの優れた成果である。

以上の点について、先端科学技術研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、先端科学技術研究センターが想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、例えば、量子ドットレーザの p-タイプ変調ドーピングによって利得の向上を図る卓越した研究成果が上がっており、これを含めて、平成 19 年度には国際賞 1 件、国内賞 7 件（4 年間ではあわせて 60 件）を受賞しており、235 件に及ぶ被引用実績を上げる論文がある。社会、経済、文化面では、光触媒産業という日本初の新しい産業分野を形成する活動によって、産学官連携功労者表彰、恩賜発明賞等を受賞しており、光触媒研究は 1,000 億円規模の世界市場となっている。また、コレステロール合成阻害剤については、300 億円の国内市場を形成している。これらの状況などは、優れた成果である。

以上の点について、先端科学技術研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、先端科学技術研究センターが想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。